

基本構想(素案)に対する【質問】【意見】一覧

参考資料1

通し番号	意見時点	意見提出者	ページ	該当箇所	意見内容	事務局の考え方	修正有無
1	第2回事前提出	西田委員	5	1. (1)本市を取り巻く社会状況の変化	「これらの変化が～」の前などに、「令和2年、突如として突き付けられた感染症との共存という視点(要素)も含め、」等、ウィズコロナについての文言を追加。	社会情勢の変化として、「感染症によるリスク」を以下のとおり追記します。 「～本市を取り巻く社会経済状況は大きく変化しています。特に、令和2(2020)年は、新型コロナウイルス感染症が世界的な流行となり、グローバル化がもたらす感染症に対応するための「新しい生活様式」の確立も急がれています。」	あり ①
2	パブリックコメント	パブリックコメント	5	1. 基本構想の策定背景(1)①人口減少・少子高齢化のさらなる進行	「人口減少と税収減少を見据えて、社会インフラを適切な規模へ段階的に縮小」とありますが、市民生活をどう充実させていく為に、どうあんなければという視点が抜けているのではないのでしょうか？	人口減少や税収減少への対応は、本市の未来においても避けがたい課題です。 今後、そうした社会状況の変化に適切に対応し、市民生活の水準を維持・向上させつつ、持続可能な都市づくりを進めていくことが重要と認識しており、下記のとおり追加します。 「社会インフラを適切な規模へ段階的に適正規模へと整えていくことが必要となります。」	あり ②
3	第2回事前提出	久保田委員	5	(1)②ビジネスや生活におけるグローバル化のさらなる進展	半年前でしたらこの内容で十分だったと思いますが、現状では今後のグローバル化の先行きが不透明になっていますので、その点は反映させなくてもよろしいでしょうか。	令和2年の外国人観光客減少について記載するとともに、将来は回復すると考えられるという旨を追記します。 「近年、訪日外国人観光客(インバウンド)が年々増加する傾向にあり、平成30(2018)年には、初めて3,000万人台を超えました。新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2(2020)年の訪日外国人観光客は大きく落ち込みましたが、治療薬等の開発・普及や、国際的な「新しい生活様式」の確立に伴い、インバウンド自体の趨勢は、中長期的にはやがて回復すると見込まれます。また、人口減少に伴う国内マーケットの縮小に対応して…」	あり ③
4	第2回審議会	土江委員	5	(1)②ビジネスや生活におけるグローバル化のさらなる進展	新型コロナウイルス感染症の影響が「中長期的にはやがて回復する」と見込むのは楽観的ではないか。(8/21河田会長)年度末の状況を踏まえて必要に応じて修正してはどうか。	国においては、入国制限の緩和措置など、国際的な人の往来の再開が進められていますが、先行きはまだまだ不透明であることから、ご意見を踏まえ、上欄のとおり、「中長期的にはやがて回復する」を「長期的にはやがて回復する」に修正します。	あり ③
5	第2回審議会	野田委員	5	(1)基本構想の策定背景全般	5年たてば、「新型コロナウイルス」という表現を使っていない可能性もある。何度も繰り返して使うのではなく、「感染症」という表現を用いてはどうか。	ご意見を踏まえ、上記2カ所以降について、単に「感染症」という表現に修正します。	あり
6	第2回事前提出	西田委員	6	(1)③様々なリスクから身を守る「自助」の重要性の高まり	L6～7「～回復力を高めていくことが必要となっています」の後などに「さらに複合災害に対応する避難計画の策定も急がれます。」等「複合災害」について触れる。	以下の通り、感染症リスクを追記するとともに、感染症とその他の災害の複合災害への対応が求められていることについて追記します。 「加えて、新型コロナウイルス感染症の世界的流行を踏まえ、感染症と自然災害に同時に対応する必要性への認識とそのための備えも求められます。また、」 「このように様々なリスクに対する認識を共有し、あらゆるリスクを想定したエビデンス(科学的根拠)に基づく防災・防犯予防・減災に取り組むため、「公助」「共助」と共に、「自助」の重要性も一層高まっています。」	あり ④
7	第2回事前提出	藤原委員	6	(1)③様々なリスクから身を守る「自助」の重要性の高まり	新型コロナウイルスの収束が見通せない中、未知の感染症への対応についても加筆したほうがよいのではないかと。		
8	パブリックコメント	パブリックコメント	6	1. 基本構想の策定背景(1)③様々なリスクから身を守る「自助」の重要性の高まり	気候変動は、自然発生的に発生したものではないと思います。その対策が、国及び世界的レベルで求められるのではないのでしょうか？ また、災害時の初動対応としては、従来より自らどう行動するか考える必要があると思いますが、それを手助けする行政の役割も重要だと思います。	気候変動に係る対策は、ご意見のとおりと認識しています。 また、災害発生時の対応は、初動対応を含め、市民と行政機関が自助・共助・公助の考え方に基づいて、それぞれの役割を理解し、確実に果たしていくことが重要と考えていますことから、上欄のとおり修正します。	あり ④

通し番号	意見時点	意見提出者	ページ	該当箇所	意見内容	事務局の考え方	修正有無
9	第2回事前提出	西田委員	6	(1)④デジタルコミュニケーション手段の高度化への対応	「ウィズコロナにおいてはますます重要な役割を果たす」という意味の文言を追加。	以下のとおり追記します L4「また、これらを基盤として、個人同士でのモノやサービスのやり取りも一般的に行われているほか、フリーランスやテレワークなど様々な働き方が広がっています。またさらに、 <u>新型コロナウイルス感染症拡大防止の教訓を踏まえ、ビジネスや教育、行政サービス等、様々な場においてリモートによるデジタルコミュニケーション手段を活用すべきとの認識も広がりました。</u> 今後も、デジタルコミュニケーション手段の発達に伴い、技術・サービスの開発が進み、人々の暮らしやビジネスが変化していくことが想定されます。」	あり ⑤
10	第2回事前提出	久保田委員	6	(1)④デジタルコミュニケーション手段の高度化への対応	デジタルコミュニケーションに関しても、同様に半年前とは大きく状況が異なっていると思います。記載されている内容の次のフェーズに入ってきたように思いますが、その点の反映はいかがでしょうか。		
11	第2回事前提出	服部委員	6	(1)④デジタルコミュニケーション手段の高度化への対応	・環境変化に適応しにくい方を考慮とあるが、昨今、フェイクニュースの話題が国際的な議論になっているように、インターネット上などでの問題は、それを使わない/使う必要がない層ではなく、「積極的に使うにも関わらずメディアリテラシーが低い層が、嘘の情報発信に騙される」「あるいは何らかの意図をもって虚構の情報発信をする」という、情報処理能力の低さや情報倫理の低さこそが問題ではないのか。この視点が抜け落ちている。	以下のとおり追記します 最終行「こういった環境変化に適応しにくい方を考慮した対応と併せ、誤った情報に左右されない主体的な情報媒体活用能力を高める情報教育や情報モラルの確立も必要となっています。」	あり ⑥
12	第2回審議会	服部委員	6	(1)④デジタルコミュニケーション手段の高度化への対応	情報リテラシーは、書き込みや読み取りのことだけではない。情報処理能力を高めることも必要である。	上欄の修正案で情報教育や情報モラルの確立も含め加筆します。	あり ⑥
13	第2回審議会	河田会長	6	(1)⑤持続可能な社会に向けた具体的な「行動」の必要性の高まり	SDGsに取り組むならば、格差の是正が大きな問題となる。課題の重要性の異なりについて認識を共有することが必要である。	基本計画冒頭で全施策目標にわたってSDGsの考え方を織り込んで施策を立案し遂行していくことと位置づけました。	なし
14	第2回審議会	河田会長	6	(1)⑤持続可能な社会に向けた具体的な「行動」の必要性の高まり	「豊かな社会」を実現するためには、数値目標を設定し、進捗状況をフォローアップするぐらいの真剣さが必要である。	基本計画において27の施策目標ごとに初期値と目指す方向を記しています。	なし
15	第2回審議会	服部委員	6	(1)⑤持続可能な社会に向けた具体的な「行動」の必要性の高まり	「持続可能性」という概念が広すぎる。「あれにもこれにも配慮」が必要となってしまうのか。	「持続可能な開発目標(SDGs)の達成は今日の国際社会の共通目標であり、自治体においてもそれぞれの特性に応じて目標設定と取組を行います。本総合基本計画においてもその考え方でこの概念を取り入れています。	なし
16	第2回審議会	河田会長	6	(1)⑤持続可能な社会に向けた具体的な「行動」の必要性の高まり	SDGsが抱える課題に対応するためには、複数部局がチームを作って取り組むことが必要	基本計画において設定した27の施策目標について、テーマや取組に応じ、複合的に対応、推進を図ります。	なし
17	パブリックコメント	パブリックコメント	6	(1)⑤持続可能な社会に向けた具体的な「行動」の必要性の高まり	最近、テレビなどで「SDGs」という言葉をよく耳にします。今回の計画ではSDGsを取り入れるようですが、なぜ、守口市がSDGsに取り組むのか、もう少し詳しく記載した方が良いと思います。	SDGsは平成27年に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」です。現在では、全世界共通の国際目標と位置づけられており、我が国でも市町村レベルからSDGsにつながる施策への取組みが推奨されているところです。 本市としても、今後の施策展開にあたっては、市民や市内各団体、事業者等と協働しつつ、より広い取組を進めることが重要であり、こうした取組により、将来都市像を実現していくことを通じて、SDGsの達成にも繋げることができるとの考えから、総合基本計画においてSDGsの考え方を取り入れることとしたものです。 基本構想のSDGsの説明に、「市民、市内各団体、事業者等と協働しつつ、」という文言を追加します。	あり (基本計画SDGsの説明)
18	第2回審議会	土江委員	8	(3)本市の特性・交通利便性	交通利便性に「駅が6つあり」という表現があるが、モノレールの駅が6つあるように誤解されるかもしれない。「合わせて6つ」「合計6つ」などの表現した方がよい。	文章の表現方法を正確化します。 L1「本市には、京阪電車、大阪メトロ(谷町線、今里筋線)、大阪モノレールの駅が合わせて6つあり、鉄道・バスによる主要ターミナルや近隣都市、空港へのアクセスが良好です。」	あり ⑦

通し番号	意見時点	意見提出者	ページ	該当箇所	意見内容	事務局の考え方	修正有無
19	第2回事前提出	服部委員	8	(3)本市の特性 ・交通利便性	・大阪都心部へのアクセスの良さのみが強調されているが、京都へ一本で行けることや北摂と言ったベッドタウンへのアクセスの良さも併記すべきだ。幅広い視野が必要。大阪市のみにプライオリティの在りどころを固定すべきではない。	アクセスの良さの表現として、以下のとおり変更します L5「～様々な都市機能を利用しやすい環境にあり、さらにまた、京都や北大阪地域へのモビリティ電車で乗り換えなく行き来できる交通利便性の高さも有しています。またさらに、大阪モノレールの東大阪市までの南伸と諸駅の設置が計画されており、大阪都市圏における南北軸の交通利便性の向上が一層期待されます。」	あり ⑧
20	第2回審議会	水原委員	8	(3)本市の特性 ・交通利便性	交通利便性の「モビリティ」という言葉は聞きなれない。補足説明が必要。		
21	第2回審議会	竹嶋委員	8	(3)本市の特性 ・交通利便性	交通利便性に「京都や北大阪地域へのモビリティの高さ」とあるが、「京都や神戸」の方がわかりやすい。		
22	第2回審議会	河田会長	8	(3)本市の特性 ・交通利便性	交通利便性はよいが、駅を降りても何もないため、家に帰るしかない。外から来る人を含めて、駅の近くで何かができる空間があればと思う。	「3.まちづくりの目標の(4)市民が誇れる魅力あるまち」においてその趣旨を織り込んだまちづくりの必要と方向性を記載しています。また、現在、旧市役所跡地を民活により魅力ある都市空間を創出する予定です。	なし
23	第2回審議会	河田会長	8	(3)本市の特性 ・交通利便性	大日のイオンモール周辺が休日に渋滞しており、解消しなければならない。渋滞が発生することは計画段階からわかっていたはず。目標を達成するために生じる枝葉の問題も考慮・対応しないと、まちの開発全体がうまくいなくなる。	都市(地域)開発に当たっては、交通計画を始め多方面な観点からアセスメントと対策の実施が大切です。基本計画や分野別事業計画に基づく事業実施に当たっては、そうした視点、意識を一層備えてまちづくりを行ってまいります。	なし
24	パブリックコメント	パブリックコメント	8	(3)本市の特性 交通利便性	交通利便性が高いという評価は理解できますが、その反面、幹線により市域が分断されているという認識も必要ではないでしょうか？	大阪中央環状線等の主要幹線道路は、その機能として広域的な移動を円滑にすることができ、東西方向、南北方向の市域内のいずれにもそのような道路があることをもって「交通利便性が高くなっています。」と評価しているものです。 一方で、そのような道路は比較的に交通量が多く、道路幅員も広いことから、横断の困難さのみならず、コミュニティ活動等に影響があるということも踏まえ、計画を策定してまいります。	なし
25	第2回審議会	服部委員	8	(3)本市の特性 ・中心市街地	中心市街地において、「守口都市核を市の玄関口」と表現しているが、並列して2つの都市核(守口都市核と大日都市核)を有するといった表現を今後検討してほしい。	現行の記述は、「守口都市核周辺における将来都市ビジョン」における位置及び表現にも準拠したもので、ご趣旨を反映できる記載として、以下の通り修正します。 L1「守口都市核」は、商業・業務系機能に加え、行政文化機能が集積しており、 <u>する市の玄関口</u> となっています。また、大阪モノレール大日駅・大阪メトロ大日駅周辺の「大日都市核」は、商業・業務・居住系機能が集積し <u>する東部地域の交流拠点</u> となっています。」	あり ⑨
26	第2回審議会	河田会長	9	(3)本市の特性 ・安全安心	「24時間」まちに人の目があれば犯罪は減少する。	ご指摘のとおりであり、「防犯委員や学校青色パトロールのボランティアをはじめとする地域での見守り」の重要性の観点から、以下のとおり加筆します。 L1「大阪府警との連携により防犯カメラ1,000台を効果的に地域にきめ細かく整備したことや防犯委員による見守り、小学校区の青色パトロール活動の充実により、地域での犯罪は大きく減少傾向にあります。」	あり ⑩
27	第2回事前提出	服部委員	11	(4)本市の主要課題 ①子育て世帯等の定住促進	・生まれ育ったことを誇りに持つ若者とあるが、主語が間違っている。そうではなく、「守口市が」、そこで育った若者が誇りに思える・自慢できる都市像にこそ成長していくべきではないのか。また、そのために、都市としての価値をどのように上げていくのか。	若者が誇りに思えるまちづくりを、守口市が進めるという視点から、以下のとおり修正します。 L6「～守口市を選択する割合を増やしていくことが必要です。また、定住促進に向けて、若者が本市に愛着を持ち、生まれ育ったことを誇りに思えるような、まちづくりを進めることも必要です。そのためには、子どもが「守口で育ちたい」、保護者が「守口で子育てをし続けたい」と思えるように、住環境や、子育て、教育等を総合的に高めていくことが大切な課題です。」	あり ⑪
28	第2回審議会	河田会長	11	(4)本市の主要課題 ①子育て世帯等の定住促進	子育て世代が、市外に転出する理由は何か。	要因は多義的であり、詳細な分析結果はありませんが、世帯人数の増加や子供の成長に伴う一定居住面積を持つ一戸建て住宅の確保による転居等が一因と考えています。	なし
29	第2回審議会	土江委員			北摂地域の方が教育が良いという理由で転出したということを知ったことがある。		
30	第2回審議会	水原委員			客観的なデータにより教育環境の違いを把握することが必要です。守口の教育のハード面が充実していると思うので、その他の要因が考えられます。		
31	第2回審議会	水原委員	11	(4)本市の主要課題 ①子育て世帯等の定住促進	RESASなどを活用して、市内・市外の人口動態のデータを分析できないか。リアルタイムのデータがとれるとよいが。	施策立案の基礎となる様々な分析に今後も取り組んでまいります。	なし
32	第2回審議会	河田会長	11	(4)本市の主要課題 ①子育て世帯等の定住促進	守口からは通える場所により大学がたくさんある。家族はバラバラに暮らすよりも、近くに住む方がよいといったことを打ち出せると良い。	守口・大阪・関西の高等教育機関の人材育成力もまちの魅力の1つであることを今後何らかの形で表してまいります。	なし

基本構想(素案)に対する【質問】【意見】一覧

参考資料1

通し番号	意見時点	意見提出者	ページ	該当箇所	意見内容	事務局の考え方	修正有無
33	第2回審議会	西田委員	11	(4)本市の主要課題 ②人生100年時代を見据えた多様な人が過ごしやすいまちづくり	コンパクトで平坦な市域として、「平坦であり、自転車での移動がしやすい」とあるが、高齢者にとって自転車は危険である。路線バスが縮小されており、市内の交通利便性の維持が課題である。	「(4)本市の主要課題」②の10行目の「誰もが安心して外出・移動できる手段の確保や…」において、趣旨は反映しております。本市における地域コミュニティ交通確保の課題意識や施策の検討について、基本計画において具体的に記述します。	基本計画
34	第2回審議会	西田委員			高齢者の移動利便性の確保についての課題を、(4)本市の主要課題で分かりやすく記載してほしい。		
35	第2回審議会	河田会長	11	(4)本市の主要課題 ②人生100年時代を見据えた多様な人が過ごしやすいまちづくり	高齢化により一人暮らしの方が増えている。そのような人がどう暮らしているのかを具体的に知っておくことが必要である。今後人口が減少し、病院への送迎バスやスーパーがなくなると、住みにくいまちになってしまう。	P11「(4)②人生100年時代を見据えた多様な人が過ごしやすいまちづくり」の箇所で課題記載を表現しています。	なし
36	第2回審議会	松川委員	11	(4)本市の主要課題 ②人生100年時代を見据えた多様な人が過ごしやすいまちづくり	守口市への定住を促すために「市民」の利便性や安全、暮らしやすさ、過ごしやすさを高めるといことと、「外部から入ってくる人」の利便性や過ごしやすさを整理した上で記載してはどうか。	P15の「3. まちづくりの目標(4)市民が誇れる魅力あるまち」の本文中の「(実現をめざす守口の姿)」の中で、交流人口も念頭に置いたまちづくりの方向性を記しました。	なし
37	第2回審議会	服部委員	11	(4)本市の主要課題 ②人生100年時代を見据えた多様な人が過ごしやすいまちづくり	車や鉄道でのアクセスの利便性は発達しているが、回遊性についても言及してはどうか。	(4)②10行目の「誰もが安心して外出、移動できる手段の確保や…」において、ご意見の趣旨を反映しています。	なし
38	第2回審議会	森(由香)委員	11	(4)本市の主要課題 ②人生100年時代を見据えた多様な人が過ごしやすいまちづくり	基本構想へは、具体的な取り組みまでを記載する必要はない。基本構想では課題や目指すところを示し、基本計画の各論につなげばよい。	総合基本計画としてのバランスを考えた上で、必要な記載を行うよう留意します。	なし
39	第2回事前提出	松川委員	11~12	(4)③防災・防犯対策のさらなる充実	ハード面の整備と、住民主体で取り組むソフト面の取り組みへの補助の両方が大切。 防災特化、防犯特化ではなく、誰にとっても安全なセーフシティ、バリアフリーかつ事故が少なくなるようなデザインに変えていく。 そのデザインは、まちの安全の基盤となる地域住民の活動を阻害しないデザインにする。 地域住民主体の様々な安全対策活動を支援する。 その際、SDGsを掲げるのであれば、当事者参画(障害者、高齢者、子ども、子どもを持つ親、外国人等)を積極的に進める。	ご指摘を踏まえ、以下のとおり変更します。 ・P12L7「高齢化のさらなる進展に備え、防災・防犯の両面から安全安心への備えをさらに高めるため、市としてハード面の整備とともに、ソフト面からは市民の主体的活動への支援を行うことなどが課題です。これにより、市民と行政機関がそれぞれの具体的な役割を理解して確実に果たし、ユニバーサルな視点を備えた自助、共助、公助の協働による安全安心社会に向かう姿勢及び体制の確立が重要です。」	あり ⑫
40	第2回事前提出	服部委員	12	(4)④市民の守口への愛着・都市イメージの向上	・ここが一番大事な部分の一つなので、もっと発展させて良いと思う。どの年齢層・どのような所得層・どのような職種・属性の人間にアピールしたいのか。活動や人とのつながりというが、それ自体は大事だが、うまくやらないと、ただ煩わしい空気になったり、一部の人たちが自己満足で群れている街になりにかねない(そうすると、多くの人々はむしろ離れていく)。これらを高度に広い層にアピールするためにどうするのか、もっと踏み込んで考える必要がある。(でない、この構想が下位に降りて個々の企画立案になるときに、方向性がぶれてしまう)	ご指摘を踏まえ、以下のとおり変更します。 ・L4「～約3割にとどまっています。年齢階層別にみれば、20歳代及び30歳代の「誇りに感じる」割合が相対的に低く、この階層をターゲットにした戦略的なまちづくりの必要性も感じられます。 また、あらゆる人々にとって、生活の利便性に加えて、守口の～」	あり ⑬
41	第2回事前提出	松川委員	12	(4)④市民の守口への愛着・都市イメージの向上	多様な人々を受け入れる包容力を持った守口市としてイメージアップ。誰も排除しない、されない、させない市になれば、新規流入者も定住したくなる。	※また、「多様な人が過ごしやすいまち」のイメージについては、P11「②人生100年時代を見据えた多様な人が過ごしやすいまちづくり」でも課題として記載しています。	
42	パブリックコメント	パブリックコメント	12	1. 基本構想の策定背景 (4)本市の主要課題 ④市民の守口への愛着・都市イメージの向上	イメージ戦略で誇りを持てるのでしょうか？地域のランドマークとなる都市の顔づくりが課題とありますが、住んでいる人にとってどうなのかという観点が必要と考えますし、一点豪華主義になるという側面もあるのではないのでしょうか？	市民アンケートの結果では、本市に愛着を感じている市民は約6割いらっしゃる一方、市民であることに誇りを感じる割合は約3割となっています。よって、より多くの市民に、本市を誇りに感じていただけるよう、本市の魅力づくりや発信により都市イメージを向上させていくことが必要と考えています。 そのような観点からも、上欄のとおり素案を修正します。	あり ⑬
43	第2回審議会	服部委員	12	(4)④市民の守口への愛着・都市イメージの向上	市外の人からみたイメージなどは調査していますか。	都市イメージの向上は重要であり、主要課題の一つに掲げています。市民に加え市外の方にも守口の良いところを知っていただく努力が重要と考えていますが、意識調査などは実施しておりません。	なし
44	第2回審議会	服部委員	12	(4)④市民の守口への愛着・都市イメージの向上	市民を対象としていてはわからないこともあるので、今後は、市外の人から守口がどうみえているのかを調査を検討してください。	今後の施策立案への参考としてまいります。	なし

通し番号	意見時点	意見提出者	ページ	該当箇所	意見内容	事務局の考え方	修正有無
45	第2回事前提出	西田委員	12	(4)⑤公共施設や都市基盤との再編統合と計画的な更新	・「縮充」という文言を使用してはどうか。	施設の規模を縮小しながら、内容を充実していくというイメージについては、同様の考え方をしていますが、「縮充」という文言は計画に記載するには、まだ一般的ではないので、その概念を織り込んだ表現を以下のとおり加筆。 ・L8「～必要となる再編統合や隣接自治体との水平連携などを進めていくとともに、一方で、スクラップのみを目的とするのではなく、新たな市民、都市ニーズに応じた機能を付加する観点も含め、将来にわたって維持できる公共施設や都市基盤の管理手法の確立や機能更新を計画的に進めていくことが必要です。」	あり ⑭
46	第2回審議会	岡山委員	12	(4)⑤公共施設や都市基盤との再編統合と計画的な更新	「スクラップ」は一般的になじみのない言葉である。変更、削除した方が良い。「都市ニーズ」が何を意味しているのかがわかりにくい。	「都市ニーズ」は、市民生活や産業経済活動上必要なインフラやそこから供給される利用(需要)を意味していましたが、表現を修正します。	あり ⑭
47	第2回審議会	河田会長	12	(4)本市の主要課題	主要課題に対応するための具体的な取り組みを考える必要がある。また、計画の進捗状況をきちんとチェックすることが重要である。	基本計画において初期値と目指す方向を設定し、PDCAサイクルによりチェックしてまいります。	なし
48	第2回審議会	河田会長	12	(4)本市の主要課題	市役所職員は市内に住むようにしてはどうか。市民の暮らしがよくわかるし、危機管理の観点からも、災害時に市役所に集まりやすい。	基本計画の施策15「防災・減災・縮小」の項で職員の非常時参集体制の強化について記述いたします。	基本計画
49	第2回事前提出	西田委員	13	将来都市像	「(仮)いつまでも住み続けたいまち守口」は率直なメッセージが伝わって良いが、都市像としては、具体的イメージがあっても良いかと思う。例えば、「教育」「防災」「健康」など特に何に力を入れて、いつまでも住み続けたいまちを目指すのかという視点でも良いかと思う。検討の余地はあると思う。	今回の総合基本計画で守口市が目指す「いつまでも住み続けたいまち」をより具体的にイメージできるキャッチコピーを公募しました。審議会での審議を受け、以下のとおり修正し、採用します。  いつまでも住み続けたいまち 守口 ～暮らしやすさが、ちょうどええ～	あり
50	第2回事前提出	服部委員	13	将来都市像	・いつまでも住み続けたいまち守口。これはキャッチフレーズとして成り立つのか(キャッチーではない)。そもそもこれは、気の利いたキャッチフレーズを求めているのか何なのか。キャッチフレーズを求めているなら、言葉の素人の集団に答申を求めず、プロの広告コピーライターに書かせたらどうか。	第4回審議会においては、「ちょうどええ～」という案に多くの賛同を得ました。応募者からの説明は、「都会すぎず田舎すぎずショッピングも食事も楽しくて医療も福祉も充実していて住みやすい町のイメージがあるので、それを「ちょうどええ～」と表現してみました。」というものです。	
51	第2回審議会	服部委員	13	将来都市像	市のコンセプトを表す将来都市像の他に、対外的なキャッチコピーとなる将来都市像を作成してはどうか。		
52	第2回審議会	野田委員	13	将来都市像	「いつまでも住み続けたいまち」にするための将来都市像を掲げるべきである。例えば、多様な人が何か新しいものを作り出していくようなイメージが考えられる。守口市に住み続けたいような具体的な都市イメージが必要である。	この「ちょうどええ～」という言葉に、「何がちょうどええ」のか具体的に盛り込み、作成したものが、～暮らしやすさが、ちょうどええ～です。	
53	第2回審議会	河田会長	13	将来都市像	「いつまでも住み続けたいまち守口」という将来都市像はいつ頃から用いているのか。		
54	第2回審議会	阪本委員	13	将来都市像	「大都市よりも大東市」という大東市の将来像はとても面白く、次はどのようなことをするのかという興味を引く。キャッチコピーではないが、そのようなイメージを考えることも大事である。		
55	第2回審議会	水原委員	13	将来都市像	キャッチコピーを今後検討する余地はあるか。		
56	パブリックコメント	パブリックコメント	13	将来都市像	将来都市像の「いつまでも住み続けたいまち守口」は、今の時代にピッタリだと思いますので、仮称ではなく、このフレーズで決定すればと思います。		

基本構想(素案)に対する【質問】【意見】一覧

参考資料1

通し番号	意見時点	意見提出者	ページ	該当箇所	意見内容	事務局の考え方	修正有無
57	第2回事前提出	西田委員	14	まちづくりの目標 (3)安全に安心して暮らせるまち	2番目の・の欄に「複合災害にも対応し」などの文言を追加。	ご意見を踏まえ、以下のとおり変更・追加します。 ・「犯罪、災害、事故、病気疾病、失業、家族構成の変化等、人生には自己や社会が抱える様々なリスクがあります。また、加齢等により、福祉・介護サービスが必要となることもあります。～～～、セーフティネットとしての行政による支援(公助)が適切に機能している「誰もが安全に安心して暮らせるまち」を目指します。」	
58	第2回事前提出	藤原委員	14	まちづくりの目標 (3)安全に安心して暮らせるまち	新型コロナウイルス感染症等、未知の感染症への対応についても加筆した方がいいのではないかと。	(実現を目指す守口の姿) 1「住民自らが強い防犯意識を持って、行政、警察とともに犯罪に巻き込まれる心配が少ない犯罪が起きにくい・起こしにくいまちづくりに率先して取り組んでいる。」 2「行政、～～、安全性が高く安心できる都市基盤が整っている。 ・安心して市民生活を送ることのできる「新しい生活様式」の確立と感染症の拡大防止の体制が整っている。」	あり ⑮
59	第2回事前提出	松川委員	14	まちづくりの目標 (3)安全に安心して暮らせるまち	(3)の「住民自らが強い防犯意識を持って、行政、警察とともに犯罪に巻き込まれる心配が少ないまちづくりに率先して取り組んでいる。」とあるが、住民は巻き込まれるだけの弱い存在ではなく、住民活動を活発にすることで犯罪認知件数が減少することは科学的に明らかにされているので、「犯罪を予防する」や「犯罪が起きにくい地域にする」などの文言の方が望ましい。		
60	第2回審議会	河田会長	14	まちづくりの目標 (3)安全に安心して暮らせるまち	守口は犯罪が多く、あまり安全安心なまちではないと思っている。	地域犯罪は、近年大幅に減少しています。ただ、犯罪発生状況と体感治安が一致していない点がみられます。この点の改善の工夫は必要と認識しています。 (例えば、街灯が少ないと体感治安が下がる。駐輪場やごみ置き場のマナー、落書きなどから体感治安は悪化する(8/21松川委員のご意見より))	なし
61	第2回審議会	土江委員	14	まちづくりの目標 (3)安全に安心して暮らせるまち	大阪府警の「安まちメール」では、特殊詐欺の情報が多く流れてくる。痴漢などは減っていると思う。	ご指摘のとおり地域でのいわゆる街頭犯罪は減少していますが、高齢者を狙った特殊詐欺は守口市でも増加傾向で対策を強めています。 (狙われやすい高齢者が増えているので、特殊詐欺が増えている。守口だけで対応できる犯罪ではない。(8/21松川委員のご意見より))	なし
62	第2回審議会	阪本委員	14	まちづくりの目標 (3)安全に安心して暮らせるまち	守口では犯罪の発生件数は減っているが、悪いイメージを持たれている。イメージ改善の取り組みが必要である。	「(4)本市の主要課題」12ページ4行目以降に記載しているとおり、事実 に即した正確な治安・防犯情報の発信は重要で、警察とも連携しその取組を強めてまいります。	なし
63	第2回審議会	服部委員	14	まちづくりの目標 (3)安全に安心して暮らせるまち	他都市の住民からみて「守口は安全な住みよいまち」と思ってもらえるようなイメージ戦略を作ることが大事である。	上記を含め、各種の取組を基本計画にも位置付けてまいります。	なし
64	第2回審議会	水原委員	14	まちづくりの目標 (3)安全に安心して暮らせるまち	学力が高いというイメージと、安全であるイメージについて相関関係を示すエビデンスはあるか。	(例えば「挨拶」が活発なまちだと、安心感につながる。一方、街灯が適切に管理されていないなどケアされていないと不安感が高まる。 (8/21松川委員より))	なし
65	第2回事前提出	服部委員	15	まちづくりの目標 (4)市民が誇れる魅力あるまち	・ここが一番大事な部分の一つなので、もっと発展させて良いと思う。どの年齢層・どのような所得層・どのような職種・属性の人間にアピールしたいのか。活動や人とのつながりというが、それ自体は大事だが、うまくやらないと、ただ煩わしい空気になったり、一部の人たちが自己満足で群れている街になりかねない(そうすると、多くの人はずる離れていく)。これらを高度に広い層にアピールするためにどうするのか、もっと踏み込んで考える必要がある。(でない、この構想が下位に降りて個々の企画立案になるときに、方向性がぶれてしまう)【ご意見 再掲】	以下の通り変更します。 ・「大都市に近いという利便性に加えて、地元で心豊かな「守口ライフ」をおくることのできる環境を整えていくことが必要です。まちのあちこちに、ワークライフバランスの下で時間をゆったりと過ごせる居心地のよい場所があり、まち地域をがらりと巡り、あるいはアクティブに活動に参加することで、～～」  (実現を目指す守口の姿) 3「様々なイベント等があり、自らも関わることもでき、楽しい時間を過ごせる。それを求めて市外からも人が訪れている。」	あり ⑯
66	第2回事前提出	松川委員	15	まちづくりの目標 (4)市民が誇れる魅力あるまち	多様な人々を受け入れる包容力を持った守口市としてイメージアップ。誰も排除しない、されない、させない市になれば、新規流入者も定住したくなる。【ご意見 再掲】		
67	第2回審議会後提出	土江委員	15	まちづくりの目標 (4)市民が誇れる魅力あるまち	「まちがきれいで、緑にあふれており、四季を・・・」とあるが緑があふれるのは公園等の公共施設か、街路樹か、それとも各家庭で行うのか具体が見えたほうが良いのでは	緑にあふれるまちづくりのためには、公園や街路樹、公共施設、また民有地も含めた緑化推進が必要であると考えています。この考え方に基づき、基本計画施策20(緑・花・公園)において、様々な場面での緑・花の推進を記載しております。 基本構想における「実現を目指す守口の姿」の記載については、基本計画の記載の前提として、幅広く、緑にあふれるというイメージをあらわすものと考えております。	なし

通し番号	意見時点	意見提出者	ページ	該当箇所	意見内容	事務局の考え方	修正有無
68	第2回事前提出	松川委員	14~15	まちづくりの目標(3)(5)	(3)と(5)の両方に、福祉が大きいかかわってくる(基本構想レベルでは具体的に明文化する必要はないかもしれないが、それをにおわせるような文言は入れておいた方がよい。)例)当事者参画、我がこと意識、包摂、排除しないなどの文言を入れる。	ご意見のとおりSDGsの誰も排除しないという考え方を取り入れ、以下の通り変更します。 (5)持続可能な都市づくりを進めるまち(実現を目指す守口の姿) 3「市民と行政が、市と市民の将来を見据えて協働し、それぞれの役割と責任のもと、「我が事」意識を持って地域の公共的な課題の解決に取り組んでいる。」	あり ⑰
69	第2回事前提出	松川委員	-	-	総合基本計画の策定は、市の方向性を決めるだけでなく、市民を教育する重要な機会だと思うので、より守口市の今がわかるデータをもっと示したほうが良い。 例)障害者の割合、外国人割合、罪種別犯罪データ(街頭犯罪だけでも)、これらの経年変化や、近隣市町村との比較があるとよい	・基本計画の余白等を活用し、市民の皆さんに知っていただきたいデータを表示した計画の体裁にしていきたいと考えています。 なお、当審議会で提示しましたデータ集については、ホームページにおいても公開しています。	なし(製本時に掲載)
70	第2回事前提出	松川委員	15	-	市民が読んだとき、ここは関係あるけど他はあまり関係ないな、と思わない様にする仕掛けが必要だと思う。様々な課題は根本のところ複雑につながっており、それらを解決するためには、守口市の様々な官民間の力を結集する必要があるが、それを認識できている市民は少ない。 例)(1)子育て支援では、公助や保育系専門機関による支援が大半になっており、企業に対しては啓発するの1文だけになっているが、共稼ぎ世帯が大半の現在において、企業に対しての積極的な取り組みがもっとなされるべきだし、基本計画内でその重要性をもっと前面に出さないとバランスが悪い。また、(23)地域産業の部分にも同じ内容を含む文言を書き入れて同一の達成目標を掲げられれば、両方の施策に対して効果的な取り組みが可能になる(かかる人でと予算の効率化にもつながる)  上記のような仕掛けを様々な施策で入れ込めば、基本構想で謳っているような「多様な協働や連携」ができる体制が、行政内部でも民間側でも官民の間でも、初めて出来上がると思う。	・各施策を通じた共通の目標については、今回の総合基本計画における基本構想では、基本計画の施策それぞれに記載するのではなく、基本構想において「まちづくりの目標」としてまとめて記載しており、これらを共通の目標として個別の基本計画に取り組むという構成としています。 なお、ご意見のとおり、様々な施策における多様な主体との連携・協働は、基本となる重要なものと考えており、上記の考え方から、基本構想における目標として「持続可能な都市づくりを進めるまち」の中で掲げているところです。	なし
71	第2回事前提出	松川委員	15	-	あと、やはり具体的な数値目標はあったほうが良い。	・今回の基本計画では、27の施策に79の「5年後の守口像」と、それに対応する「評価指標」を設けていますが、「評価指標」は、目標とも言える「5年後の守口像」の実現状況を測るためのモノサシの一つであると考えています。 前期基本計画においては、この評価指標について、目指す方向性を示し、個別の定量数値目標にとらわれることなく、取組の着実な推進によりその達成度を確認できるようなスタイルを考えています。 個別の定量的数値目標の設定については、何を数値目標にするか、そのエビデンス、妥当性に統一理解を図りにくい指標もあると考え、それらは今回の総合基本計画で設定するのではなく、むしろ当該計画を上位計画として個別法等に基づいて策定する各分野の(事業)計画(例えば「子ども子育て支援事業計画」「障がい者計画と障がい福祉計画」など)に委ねた方がより合理的なPDCAサイクルを織り込んだ計画策定になるのではと考えました。	なし